

激動の経営

「世界で勝負」

「この新しいネジなら日本だけでなく世界で勝負できる」。時は高度成長期真っただ中の1970年。弱冠30歳の若き起業家だった戸津勝行は、アメリカ

カンドリームを胸に秘め、産業用電動ドライバー大手ハイオス（東京都墨田区）の歴史を開始。ネジの手締め時代から、現代のロボットによるネジ締め自動化（デジタル化）への第一歩だった。

東京の下町・墨田区押上に生まれた戸津は父親がガソリンスタンドを経営していたこともあり、クルマやバイクに興味があり、部品・機械いじりが好きだった。当時から不満がネジの使い勝手の悪さだった。マイナスネ

ハイオス

①

世界初 電動ドライバー



①戸津勝行が開発した新型ネジ「トツねじ」②同産業用電動ドライバー（共にハイオス提供）



ジの溝からドライバー先端が滑ったり、溝が崩れたりと四苦八苦。このネジとドライバー

の仕組みが何百年も変わらずに続いてきたという事実には、「まるで現代に生きる古代魚、シーラカンスのような存在」に感じた。

この経験が戸津のネジ開発意欲に火をつけた。世の商品・製品が進化を遂げる中で、モノづくりには不可欠なネジが形態を全く変えずに「安ければ良い」という製造コストを削られる存在でしかない。自らを「獲物を見つけたら突っ走る猟犬のような性格」と称するだ

新型ネジ開発に没頭

けに、新しいネジの開発に没頭。1967年に父親のガソリンスタンドの2階に間借りする形で「戸津研究所」を立ち上げた。

量産へアイディア

これを機に自動車用ネジとして大口採用を期待したものの、大きな問題が生じた。当時、プラスチックを切削加工していたメーカー各社では異なる加工設備が

目。「緩みなく確実に締められるネジに変えれば、ツインキャブのバランスを高められる」とし、ネジ溝の中心部に凹部を造り、同時にドライバー先端に嵌合する突起部を設けた新システム「トツねじ」を考案した。大手自動車メーカーに提案

デアを生み出した。当時、エアコンプレッサーを使ったドライバーが全盛だったがトルクの強さなどから大きなネジしか対応できなかった。「低電圧のモーターで電流制御するドライバーとトツねじを組み合わせれば小ネジ市場を席巻できる」と戸津は確信した。

これが世界初の産業用電動ドライバーの誕生だった。（敬称略）
▽所在地 東京都墨田区押上1-35の1 代表 戸津勝行氏 設立 1970年（昭45）
▽資本金 2000万円
▽従業員数 100人
▽売上高 非公表